

## 社会学部報

### ◇受賞

八木克正教授は英語語法文法学会において、第1回「英語語法文法学会賞」を受賞した対象は『英語の文法と語法—意味論からのアプローチ—』（1999 研究社出版）。

### ◇学術講演会および研究会

- 2000年10月25日（水）（研究会例会）  
講師 阿部 潔 氏  
（社会学部 助教授）  
『グローバル化時代の「ナショナルなもの」のゆくえ  
—講義「国際コミュニケーション」を振り返りながら—』
- 2000年11月8日（水）（研究会例会）  
講師 Hans Dieter Ölschleger 氏  
（ドイツ・ボン大学日本文化研究所 講師）  
「現代日本の家族  
—ドイツとの比較の視座から—」
- 2000年11月22日（水）（研究会例会）  
講師 大和 三重 氏  
（社会学部 助教授）  
「高齢者のエンパワメント  
—英国の事例に学ぶエンパワメント  
実践の可能性—」
- 2000年12月6日（水）（研究会例会）  
講師 武田 丈 氏  
（社会学部 専任講師）  
「マイノリティ・コミュニティのかづけ（エンパワメント）：ミクロプラクティスとともにメゾマクロ・プラクティス  
—アメリカでの難民研究、インドでの識字研究、被災者生活再建調査、NPO 活動を通じて—」
- 2001年1月24日（水）（研究会例会）  
講師 藤井 美和 氏  
（社会学部 専任講師）  
「がん患者の Quality of Life (QOL)  
—QOL とその構成概念の変遷—」

### ◇社会学部教職員人権問題研修会

- 2000年11月15日（水）  
講師 川崎 俊和 氏  
「仕える業としての福祉」  
社会福祉法人 聖恵会 理事長  
重度身体障害者授産施設 聖恵授産所 所長  
聖恵在宅サービスセンター 所長

### ◇海外出張

- 森川 甫 教授  
2000年9月19日から9月30日まで  
ジャン・メナール教授との研究協議のため、フランスへ。
- ルース M. グルーベル 教授  
2000年10月25日から10月28日まで  
アジア・キリスト教大学協会総会に出席のため、台湾へ。
- 久保田 稔 教授  
2000年11月2日から11月12日まで  
17回国際糖尿病学会にて発表のため、メキシコへ。
- 奥野 卓司 教授  
2000年11月3日から11月13日まで  
第7回 ITS 世界会議で報告するため、イタリアへ。
- 浅野 仁 教授  
2000年11月17日から11月23日まで  
53rd Annual Scientific Meeting The Gerontological Society of America にて報告のため、アメリカへ。
- 福地 直子 助教授  
2000年11月19日から12月2日まで  
共同研究打ち合わせ及び資料収集のため、アメリカへ。
- アラン プレイディ 教授  
2000年12月1日から12月4日まで  
イギリスへ留学中のところ、5th ANNUAL CROSS-CULTURAL CAPABILITY CONFERENCE にて研究発表を行うため、リーズメトロポリタン大学へ。
- 木村 真理子 助教授  
2001年2月18日から2月24日まで  
精神保健海外研修支援（講義、及び専門的知識の提供と助言）のため、アメリカへ。

## ◇新刊書紹介

- 森川 甫 教授 (単著)  
「パスカル『プロヴァンシアルの手紙』—ポール・ロワイヤル修道院とイエズス会—」  
関西学院大学研究叢書  
第95編 関西学院大学出版会 2000. 3
- 宮原 浩二郎 教授 (分担執筆)  
「移動」と「定住」：稲垣論文へのコメント  
やまだようこ編著『人生を物語る—生成のライフストーリー—』  
ミネルヴァ書房 2000. 7
- 大村 英昭 教授 (共編)  
『臨床社会学のすすめ』  
有斐閣アルマ 2000. 9
- 宮原 浩二郎 教授 (分担執筆)  
「思いやりのある手紙」  
大村英昭編『臨床社会学を学ぶ人のために』  
世界思想社 2000. 10
- 奥野 卓司 教授 (共著)  
『ITS とは何か—情報革命とクルマ社会—』  
岩波書店 2000. 10
- 奥野 卓司 教授 (単著)  
『第三の社会』(ハンゲル翻訳版)  
韓国学術情報(株)刊 2000. 10
- 荻野 昌弘 教授 (分担執筆)  
「負の歴史的遺産の保存—戦争・核・公害の記憶」  
片桐新自編  
『歴史的環境の社会学』  
新曜社 2000. 10
- 大村 英昭 教授 (編著)  
『臨床社会学を学ぶ人のために』  
世界思想社 2000. 10
- 山本 剛郎 教授 (共訳編)  
『アメリカンライフにおける同化理論の諸相—人種・宗教および出身国の役割—』  
晃洋書房 2000. 11
- 荒川 義子 教授 (編著)  
『医療ソーシャルワーカーの仕事』  
川島書店 2000. 11
- 芝田 正夫 教授 (単著)  
『新聞の社会史—イギリス初期新聞史研究—』  
関西学院大学社会学部研究叢書第7編

晃洋書房 2000. 11

- 芝野 松次郎 教授 (編)  
『子ども虐待 ケース・マネジメント・マニュアル』有斐閣 2001. 1

## 学会消息

## ◇アジア太平洋社会学会

社会学部は、2000年9月14日～16日に第4回アジア太平洋社会学会大会を開催した。14日と15日は、「Transitions in Asia Pacific Societies」の統一テーマのもとに、E号館で研究発表を行い、内外から102名の参加者と100件近くの報告がなされた。本学部からは、ルース・グルーベール教授、真鍋一史教授、アラン・ブレイディ教授がそれぞれ報告を行った。16日には、神戸アジア関西学院創立111周年記念事業の一環として、朝日新聞社と共同で「アジアの若者はどこへ行くのか～試されるアジア的価値」と題して、シンポジウムを開催した。パネルディスカッションに先立って、奥野卓司教授は社会学部が実施した留学生に関する意識調査結果について報告をしたほか、高坂健次教授はシンポジウムのコーディネータと司会をつとめた。参加者は約400人であった。

なお、高坂教授は総会と大会直後の理事会を経て、ひきつづき会長に選出された(再任の任期は、2002年のブリズベン大会まで)。

## ◇教理社会学会

9月30日と10月1日に、第30回数理社会学会大会が滋賀大学で開催された。本学研究科の浜田宏氏は、第4回数理社会学会賞を受賞し、「理論社会学としての数理社会学」と題して受賞記念講演を行った。

## ◇国際社会学会(方法論研究委員会)

○第5回方法論国際会議(Fifth International Conference on Logic and Methodology)が2000年10月3日～6日、ドイツ・ケルン大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、「国際比較の方法論」のセッションで「国際比較調査における質問紙作成の方法論」と題する研究発表を行なうとともに、国際比較およびFacet Theory 関連の諸セッションでの討論に参加した。なお、この発表に対して、関西学院大学国際学会・会議報告者等助成金が支

給された。

#### ◇日本社会学会

11月11日と12日に、第73回日本社会学会大会が広島国際学院大学において開催された。高坂健次教授は「2000年記念シンポジウム」(「政策 社会学は役に立つのか—社会問題群と社会学」)の討論者の一人をつとめた。

また大谷信介教授は「都市Ⅰ」部会で、三浦耕吉郎助教授は「文化・社会意識Ⅰ」部会で、荻野昌弘教授は「文化・社会意識Ⅱ」部会で司会をつとめた。

#### ◇関西社会福祉学会

2000年11月18日(土)に関西社会福祉学会が梅花女子大学において開催された。

シンポジウム「関西社会福祉の伝統と役割—その思想、実践、理論の再吟味」に本学部の室田保夫教授がシンポジウムのパネリストとして参加した。

#### ◇日本出版学会

○日本出版学会2000年度関西地区秋季研究集会は、2000年12月2日、大手前大学において開催された。講演とシンポジウム「出版のモダニズムを考える」がおこなわれ、芝田正夫教授はシンポジウムの司会を担当した。

執筆者紹介 (掲載順)

森川 甫	関西学院大学社会学部教授	岡田 弥生	関西学院大学社会学部助教授
Jean MESNARD	アカデミー・フランセーズ会員 パリ・ソルボンヌ大学名誉教授	野波 寛	関西学院大学社会学部 専任講師
山上 浩嗣	東京大学大学院総合 文化研究科助手	打樋 啓史	関西学院大学社会学部 専任講師・宗教主事
Olivier MILLET	バーゼル大学教授	倉田 康路	関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程後期課程
望月 ゆか	フランス国立東洋言語文化 研究所講師	包 敏	関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程後期課程
Philippe SELLIER	パリ・ソルボンヌ大学名誉教授	浅野 仁	関西学院大学社会学部教授
春名 純人	関西学院大学社会学部教授	金菱 清	関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程前期課程
紺田 千登史	関西学院大学社会学部教授	古家 曜子	関西学院大学兼任講師
真鍋 一史	関西学院大学社会学部教授	Ruth GRUBEL	関西学院大学社会学部教授
石川 明	関西学院大学社会学部教授	藤田 譲	関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程後期課程

社会学部研究会会員

会 長	高 坂 健 次	石 川 明	奥 野 卓 司
運 営 委 員	大 春 名 純 人	R. M. グルーベル	大 和 三 重
会 計 監 査	中 山 慶 一 郎	紺 田 千 登 史	
書 記	速 水 幸 一	船 本 弘 毅	半 田 一 吉
名 誉 会 員	遠 藤 惣 一 一	小 関 藤 一 郎	倉 田 和 四 生
	J. A. ジョイス	萬 成 博 一 郎	宮 田 満 雄
	牧 川 正 英 満 子	中 野 秀 一 郎	西 尾 朗 穰
	村 山 美 瑳 子 方 夫	岡 村 重 夫	西 領 家 建
	杉 原 國 夫	津 金 澤 聰 廣	武 田
	(A. B. C 順)		
普 通 会 員	佐々木 薫	森 川 甫	中 山 慶 一 郎
	春 名 純 人	紺 田 千 登 史	真 鍋 一 史
	山 路 勝 彦 子	山 本 剛 郎	高 田 真 治 仁
	荒 川 義 次 夫	安 藤 文 四 郎	浅 野 路 人 弘
	高 坂 健 次 夫	石 川 明 次 郎	對 馬 武 茂 雄
	芝 田 正 浩 二 郎	芝 野 松 次 郎	藤 原 木 克 正 介
	宮 原 浩 二 郎	藤 戸 淑 子 雄 稔	立 木 谷 信 保 夫
	田 中 耕 一 子	居 樹 伸 雄 稔	八 大 室 田 浦 耕 吉 郎
	奥 野 卓 司	久 保 田 R. M. グルーベル	大 室 田 浦 耕 吉 郎
	川 久 保 美 智 子	荻 野 昌 弘	三 浦 田 浦 耕 吉 郎
	A. ブレイデ	荻 野 昌 弘	三 浦 田 浦 耕 吉 郎
	大 村 英 昭 子	浅 田 波 功 士	岡 木 村 真 理 子
	福 地 直 子 重 美 和	難 波 部 壱 聡 丈	木 野 打 樋 啓 史
	大 川 島 惠 美 和	池 武 田	野 打 樋 啓 史
	藤 井 美 和	武 田	野 打 樋 啓 史

## 関西学院大学社会学部研究会会則

### 第1章 総 則

#### 第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

#### 第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

#### 第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155関西学院大学社会学部内におく。

### 第2章 事 業

#### 第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会 員

#### 第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

### 第4章 運営組織

#### 第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第 7 条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

## 第 5 章 総 会

第 8 条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第 9 条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

## 第 6 章 会 計

第 10 条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 11 条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費  
普通会員年額 31,200円  
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第 12 条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

## 付 則

第 1 条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第 2 条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第 3 条

本会則は1992年4月1日より施行する。

## 「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行  
 1996年10月23日改正  
 1999年4月14日改正  
 2000年10月4日改正  
 2001年2月22日改正

1. 「社会学部紀要」（以下、本紀要という）は原則として、当該年度中に2回発行する。退職者の記念号を刊行する場合はこの限りでない。通常の年二回刊行の場合は、6月末日を原稿締切日とする号は11月上旬の配付を、11月末日を締切日とする号は3月下旬の配布を目標とする。名誉博士号授与の場合は、特別記念号を刊行する。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会が行う。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
  - ①原著
  - ②研究ノート
  - ③学部及び社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
  - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
  - ⑤社会学部最優秀卒業論文賞（安田賞）受賞論文
  - ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、並びに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究を行った者とする。
 

上記以外の投稿者に関しては普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て2名を限度として掲載することができる。

大学院学生並びに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。

退職記念号については、学外者2名まで寄稿を依頼することができる。学外の寄稿者への原稿料については社会学部研究会運営委員会でするものとする。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
  - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
  - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
  - ③図表、写真等は題字、説明付きですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する箇所を本文欄外に指示すること。
 

図表、写真等の費用は50,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
  - ④原稿には和文及び英文の表題、更に欧文のアブストラクトをつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
  - ⑤原稿に3語のキーワードをつける。
6. 原稿の提出については、完全原稿を、チェック済みのアブストラクトと共に、期日までに提出するものとする。
7. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。

8. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
9. 原稿言語校閲及び謝礼について
  - ①欧文のアブストラクトの原稿校閲については、執筆者本人より校閲者に校閲を依頼し、事後「社会学部紀要アブストラクト原稿校閲（ネイティブ・チェック）に関する報告書」（書式用紙による）を提出する。校閲者への謝礼の金額については研究会運営委員会で定めるものとする。
  - ②欧文で論文を掲載する場合の原稿言語校閲については、執筆者本人より校閲者に校閲を依頼し、事後「社会学部紀要欧文原稿言語校閲（ネイティブ・チェック）に関する報告書」（書式用紙による）を提出する。校閲者への謝礼の金額については研究会運営委員会で定めるものとする。
  - ③編集委員会が依頼した外国語原稿を日本語に翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で定めるものとする。
10. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。また、執筆者が既に外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議の上、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
11. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷100部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
12. 発行された紀要は名誉会員、普通会员、大学院学生、大学院研究員及び学生に配布する。その年度の非常勤講師にも配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
13. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

---

<編集後記>

---

多くの卒業生を社会に送り出す春の季節は、同時に、定年をお迎えになりました先生とお別れする一抹の寂しさを味わう季節でもあります。「社会学部紀要」第89号を「森川甫教授記念号」として刊行致します。

森川先生は社会学部に実に38年の長きに亘って在職され、学院と学部にも多大の功績を残されました。先生の学問的貢献は多方面に亘っていますが、ライフ・ワークとしての一本の大きな柱はパスカル研究でありました。その成果は昨年「パスカル『プロヴァンシアルの手紙』」(関西学院大学出版会)として結実しました。その中に示されているように、先生は『イエズス会フランス管区長からイエズス会本部への公式報告書』の中にパスカルの『プロヴァンシアルの手紙』に関する報告記事を発見するという大きな業績を残されました。この発見は偶然ではなく、常に緊張して持続する研究の問題意識の文脈の中で「そのようなものが存在しているのではないか」という直観があればこそその発見ではなかったかと思われれます。学部におけるフランス語教育や西洋文学の講義を通して常にアカデミックな姿勢を堅持し、パスカル研究やカルヴァン研究に裏打ちされたフランスの学問的宗教的教養を伝達して下さいました。そのような学問的姿勢は社会学部とヨーロッパの大学との交流の推進にも力となりました。フィリップ・セリエ教授(パリ・ソルボンヌ大学)、オーギュスタン・ベルク教授(フランス国立社会科学高等研究院)、オリヴィエ・ミエ教授(バーゼル大学)を招聘しての学部講演会の開催などに尽力されました。また、社会学部研究会の運営委員会の委員長として研究会例会と社会学部紀要の充実に尽力されました。森川先生が定年後もますますお元気でご研究を展開されますようご健勝を祈ります。

特別寄稿して下さいましたジャン・メナール教授(アカデミー・フランセーズ)、オリヴィエ・ミエ教授をはじめ、論文をお寄せ下さった研究会会員の皆様に感謝いたします。

最後に編集の実務を担当して下さいている湯原陽里香主事には今回も大変お世話になりました。一冊の紀要が刊行されるまでの膨大な量のさまざまな実務に細心の注意と配慮とをもつて的確に対応して下さいました。記して篤く感謝申し上げます。(春名純人)

---

2001年3月1日 印刷

2001年3月15日 発行

編集発行人 高坂健次

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(54)6202

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒661-0957 尼崎市下坂部3丁目9番20号

電話(06)6494-1122(代)

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**  
**SCHOOL OF SOCIOLOGY JOURNAL**

—Until No.87, March 2000, SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES—

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

---

No. 89

March 2001

---

In Dedication to Professor MORIKAWA Hajime

---

The School of Sociology Study Association

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**

Nishinomiya, Japan

---